

平成27年度 長岡市三島郡家庭科部 活動報告

副部長 高橋 友子

1 研究主題

よりよい生活を創り出す児童の育成

2 研究の概要

- (1) 4月23日(木) 家庭科部会総会 年間計画立案 長岡市立大島中学校
(2) 10月27日(火) 授業研究会 長岡市立新組小学校

3 研究の実際

(1) 授業公開

- ① 授業者 長岡市立新組小学校 5年担任 山口恵理子 教諭
② 単元名 「食べて元気に」
③ 本時のねらい 意見交換を通して、おいしいご飯の炊き方を工夫することができる。
④ 本時の展開 (8/17 総合6時間含む)

時間	学習活動	発問・児童の反応
5分	本時の学習課題の確認	T 究極のご飯を炊くコツを探ろう。
10分	試し炊きのご飯の出来から問題点と改善点を班で話し合う。	T 各班のでき具合をポイントごとにまとめた表を提示し、比較しやすくする。 C 水加減、氷の量、甘さ、かおり、もちもち感等からコツをさぐるように話し合う。
25分	班ごとに発表する。コツをポイントごとにまとめる。	T 水や氷の量、火加減、蒸らし方の基本をはっきりさせよう。 C 基本のままだが一番よく炊けそう。
5分	本時のまとめをする。	T 大事なことをまとめよう。

(2) 協議会(主な意見)

- 総合の学習(米づくり)と関連させた単元づくりが参考になった。他の学校の実践の参考になる。
- 自分たちが栽培した米を、おいしく炊いてお世話になった農家の方々に食べていただこうと、目的意識や相手意識をもって、意欲的に学習していた。
- ご飯炊きのプロ(寿司職人)から、米の洗いや火加減の基本を学ぶ学習の構想が工夫されている。
- 炊飯器でなく、火力調整しながら鍋でご飯を炊く学習は小学校の家庭科でしか体験できない。そこに重点をかけて取り組んでいてすばらしい。
- 話し合いやワークシート記入時に、「うまみ」「ねばり」「かおり」「水加減」等の言葉を子どもたちが使っていて、学習の中での言語活動がしっかりしていることが伝わってきた。
- 食べ比べの活動は難しい。「美味しさ」は個人の好みもあるので「ふっくら」「冷めても美味しい」などの条件がほしい。



4 成果と課題

研究主題にせまるための「目的意識をもたせる」「家庭との連携や体験活動を通して学ぶ」「言語活動を充実させる」等の指導の構えがしっかりと単元構想に位置付けられ、指導されていた。また、中学校の技術家庭科の先生方が参加され、小中のつながりの大切さを意識することができた。会場校の全面的な支援と参加者の活発な意見交換のおかげで、大変有意義な研修会となった。